

第2回大分市教育ビジョン検討委員会 会議要旨

日時：令和元年10月8日（火）9：00～11：20

場所：大分市保健所6階 大会議室

○出席委員7名、欠席委員3名

次 第

(1) 開会

(2) 議事

基本計画の検討1

① 基本計画の目的等について

② 基本方針1「生きる力を育む学校教育の充実」

③ 基本方針2「子どもたちの学びを支える教育環境の充実」

<主な意見・質問等>

委員	重点施策（3）具体的施策②の読書活動について、指標を「読書が好きな児童生徒の割合」としているが、優れたマンガ本を配架することにより図書館が身近になるということも考えられるが、図書館にはマンガ本を置いているか。また、図書館の本を校内の先生は読んでいるのか。図書館の本を先生が読み、子どもたちに推薦するということはあるのか。
事務局	歴史に関するものなどで、子どもたちの学習を深めるものは、マンガで示した本が図書館にある。クラスの子どもたちを図書館に連れて行ったり、図書館で授業を行ったりする中で、教員は図書館の本に触れている。なお、一部の小学校では、新しく購入する本を選定する際に、事前に子どもたちの手に取らせて、どれを読みたいかという票を投じさせ、その意見を取り入れている。
委員	今、マンガは重要な日本文化として世界的にも認知されている。選書に当たっては多様な観点が必要であると思う。また、大学においても選書ツアーというものを行っているので、子どもたちの手に取らせてどれを読みたいかを聞くのは良い取組だと感じる。
委員	重点施策（1）具体的施策①の指標「公開研究発表会」については、年に1回の開催か。
事務局	年1回の開催としている。
委員	重点施策（2）具体的施策①の指標「学力調査における全国平均以上の教科の割合」で、目標値は100パーセントでないといけないのか。
事務局	教育委員会としては、まずしっかりとした学力を子どもたちに定着させることを目標とするために100パーセントとしている。
委員	重点施策（2）具体的施策②の指標「自分で考え、自分から取り組んだ児童

	<p>生徒の割合」について、実際にはどんな測り方をするのか。測定するには、かなり問題があるのではないか。また、重点施策（3）具体的施策②の指標「自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合」についても、どういう測り方をするのか。</p>
事務局	<p>いずれも文言としては、全国学力学習状況調査の中のものである。この調査の中には、子どもたちの生活の状態や学習の状態を尋ねる項目が数十項目ある。その結果を全国と比較しながら、指導に役立てるための数値としているところである。</p>
委員	<p>「自分で考え、自分から取り組んだ児童生徒の割合」について、OECDの人材育成の中に「人の力を借りて自分を活かすことができる」という視点がある。「自分が人の力を借りてやれたことがあるか」というようなことを考える視点がどこかに入るのも良いかと思う。</p>
事務局	<p>「人の力を借りて自分を活かす」ことについては、今求められている主体的・対話的で深い学びに必ず必要な要素であると思っている。</p>
委員	<p>指標が全国的な調査を基準にしていることは分かるが、一般市民の方が、この指標だけを読むと少し漠然としたものに思えるのではないかと感じる。算出のもとになる調査が分かるようにした方がよいと思う。</p>
事務局	<p>注記として、「全国の調査による」ということを付記することを検討する。</p>
委員	<p>学力調査結果が公表されることにより、学校に対してもっとがんばらないといけないのではないかと、といった意見が出てくるのではないかと思う。そういう意味で、公表することが、学校にとってマイナスになるのではないかと。また、事情によっては、目標の学力を達成できない学校もあると思うが、どのように考えているか。</p>
事務局	<p>学力調査は、学力の一部を測るものとして実施しており、学校をランク付けするような意識があってはならないと思っている。一方で、子どもたちの学力について、市民の方への説明責任もある。学力調査の結果を通して、今後子どもたちをどのように指導していくのか、教師が指導をどのように変えていくのかという改善策も示していく。</p>
委員	<p>「自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合」という道徳の指標について、学校では自尊感情を高めるいろいろな取組を行っており、また、道徳の授業の中身はいろいろなものがあるが、他の指標はなかったのか。</p>
事務局	<p>道徳の価値項目は色々あるが、大分市の子どもたちには、自尊感情を強く持って欲しいという願いからこの指標としたところである。</p>
委員	<p>大友宗麟の副読本については、実際にどのくらいの学校が使っているのか。</p>

事務局	<p>大友宗麟副読本は、子どもたちに地域への愛着と郷土への愛着を育んでもらうという目的で、平成25年度から市内全小学校の6年生に配布している。昨年度末のアンケートでは、約90パーセント程度の学校で3時間の授業に活用されている。</p>
委員	<p>小中一貫教育について、大事なのは教育課程の編成であると思う。市教委で準備していることもあるだろうし、取組を始めようとしている校区もある。教育課程についての考えを聞きたい。また、教育課程の編成については記載しないのか。</p>
事務局	<p>小中一貫教育に係る教育課程の編成については、「大分市の教育方針」において示している。</p>
委員	<p>「新時代に対応した義務教育の在り方」の中で、学級担任制と教科担任制の話が文科省が出している。このことについての、市教委の考え方があれば教えて欲しい。</p>
事務局	<p>教科担任制については、特に小学校において、教職員の時間外勤務の縮減という観点からも一層推進していかなければならないと考えている。また、小学校における英語等で教科担任制が進んでいくことは、子どもたちにとっては、より学力の定着につながることから、教科担任制をできる限り進めていきたい。</p>
委員	<p>指標については、「人の役に立つ人間になりたいと思う児童生徒の割合」など、全国学力学習調査、あるいは、県学力調査の学習状況調査をもとに定めているものが多いと思う。その基準値は、その年度の大分市の子どもたちの数値であると思うが、全国は何パーセントなのかが分かると、市民の方に分かりやすいと思う。</p>
事務局	<p>「教育ビジョン」については、毎年度、「点検・評価」を実施している。「点検・評価」においては、全国値等と比較して評価しているところである。「教育ビジョン」に全国値を記載するというご意見については、「教育ビジョン」の全体に関わることであるので、検討したい。</p>
委員	<p>重点施策（4）具体的施策②の主な取組で記載されている「がんについて正しく理解し」というのはどのような内容なのか。</p>
事務局	<p>国の施策として、がん教育がある。若い世代である子どもたちが、がんについて正しく理解し、健康と命の大切さを学ぶことを目的として、いろいろな知識を持った先生方を講師として学校に招くということを県と一緒に取り組んでいる。</p>
委員	<p>保育現場においても小児がんの子どもたちがいる。退院をした子どもに対し</p>

	<p>て、保育者が「治ってよかったね」のような対応をすることにより、子どもたちが傷つく場合がある。がんには再発の恐れがあり治って退院したわけではない、という親の苦しみを理解していない声掛けが、幼児教育の場面で問題となっているので、小児がんの子どもたちにどう接していくのかということも含まれるのかと思ひ尋ねた。</p>
<p>委員</p>	<p>社会の変化が目まぐるしく、がん教育、キャリア教育など、〇〇教育というのが次から次へと出てくるが、学校は対応できるのか。カットしなさいということではないが、何でも学校がやるということでは、学校現場は大変だろうと心配している。</p>
<p>事務局</p>	<p>ご指摘のとおり、社会が変化していく中で、〇〇教育というのが増えてきている。例えば、「情報モラル教育」について、スマートフォンの扱いについては、学校でルールを決めてもらいたいという保護者の意見もあるが、これについては、ご家庭でルールを決めていただくことをお願いしている。このように、学校が主体的に取り組んで子どもたちに力をつけていくことと、家庭が中心となって取り組んでいただきたいこととははっきりさせながら進めていきたいと考えている。</p>
<p>委員</p>	<p>体力調査の指標について、目標値の根拠は何か。</p>
<p>事務局</p>	<p>2015年度から2パーセントずつ基準値が上昇していることからである。</p>
<p>委員</p>	<p>重点施策（5）具体的施策②に「情報化社会に対応した」とあるが、大分市は他市町村に比べてICTが充実しており、先生方の指導や働き方改革にも役立っていると思う。教員がどれだけ使いこなせるかということが重要であると思うので、指標を「授業中にICTを活用して指導することができる教員の割合」としているのは非常に良いと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>キャリアパスポートについて、検討していることがあれば教えて欲しい。</p>
<p>事務局</p>	<p>キャリアパスポートについては、「大分市の教育方針」の中で示している。キャリア教育は、国が全国の中学校において、子どもたちを1週間地元の事業所に派遣した平成17年から19年のキャリアスタートウィークという事業から始まった。その時期あたりから、各中学校においては、子どもたちを1日から3日間、地元の事業所に派遣しており、職場体験を通じて子どもたちには望ましい勤労観を育成できていると考えている。小学校高学年で、職業調べ、中学校で職業人と語る会、中学2年生で職場体験、3年生では、高校等に進学している先輩が語る会などを実施することにより、小中9年間を通じたキャリア教育を推進している。</p>
<p>委員</p>	<p>自分の未来を描くというのは、子どもたちにとっては難しいことである。しかし、先を描くということで、希望やこれからがんばろうという気持ちが出てくるので、キャリアパスポートが非常に大事だと思っている。</p>

委員	<p>重点施策（４）現状及び課題で、「自分の健康を自ら守ることができる知識や実践力を身に付けさせる」というとても大事な視点が書かれている。そして、「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育成する」とあるが、人生１００年時代を見据えて、小学校期の体育をどう考えるかという視点も良いと思う。しかし、体力の二極化が問題になっており、中学校女子には、体育の授業でしか運動しないという生徒が数割いることも分かっている。そういう観点からすると、「新体力テストにおける総合評価がC以上の児童生徒の割合」という指標は、運動をしている子どもの割合を増やそうという発想の指標だと思うが、二極化の解消を考えるのであれば、D・Eの割合を減らすという指標の設定もあり得る。A・B・Cに着目した指標にした理由があれば教えて欲しい。</p>
事務局	<p>運動が苦手な子ども、総合評価がD・Eの子どもたちをいかに伸ばしていくかは大きな課題であると思っている。A・B・Cに着目した指標は、県の指標に合わせている。</p>
委員	<p>重点施策（６）（７）の指標の目標値は１００パーセントが多いが、大丈夫か。また１００パーセントとする根拠は何か。</p>
事務局	<p>特別支援教育の充実に関する指標については、これまでも１００パーセントに近い状況で実施している。教師として常に１００パーセントを目指すということである。</p>
事務局	<p>幼児教育についても、１００パーセントを目指して一生懸命やっていくということである。</p>
委員	<p>重点施策（７）具体的施策①の指標「資質及び専門性の向上が図られている幼児教育・保育施設の割合」は、例えば、研修等を実施したなどで判断するのか。</p>
事務局	<p>「幼児教育・保育振興計画」の中の質の向上の項目にある具体的取組から、「園外研修や研究会に積極的に参加させている」「園外研修の報告会を行う等他の職員への還元に努めている」「園内研修の充実を図っている」の３点を評価基準としている。</p>
委員	<p>指標の記載のみの場合、主観で判断するようになってしまうので、評価基準についても教育ビジョンに記載すべきではないか。</p>
事務局	<p>記載する。</p>
委員	<p>「資質及び専門性の向上が図られているか」の評価基準をはじめから知っていることが大事である。指標とは、目指しているものであるなので、それを意識してもらわなければならない。他の指標についても同様である。</p>

事務局	各幼児教育・保育施設に対して、子ども企画課が巡回指導を行っているところであり、この指標に基づいた指導を行っている。また、「大分市幼児教育・保育振興計画」の中に具体的な取組として記載されていることから、「振興計画」の一層の周知に努めたい。
委員	重点施策（6）具体的施策③の主な取組にある、大分市相談支援ファイル「つながり」については、活用の仕方が分からないという話をよく聞く。どのように活用されているのか。
事務局	「つながり」ファイルの活用を促すために、新しい内容を保護者宛てに送付したり、配付の際に保護者に詳しい説明をしたりしている。保護者が書く項目が非常に多いので、工夫・改善を考えていく。
委員	「いじめの解消率」と「不登校児童生徒の出現率」の2024年度の数値は、どのように算定しているのか。特に、いじめについては、2024年度に求める数値が低いと感じるが、この数値は全国値なのか。
事務局	いじめ・不登校については、数値指標になじめるのかということも十分に検討した。ただ件数を下げればよいという問題ではないと捉えている。数値は全国値を参考とした。
委員	重点施策（2）具体的施策②の指標は、「トイレの洋式化」よりも「特別教室への空調の設置率」としていただきたい。
事務局	特別教室の中でも音楽教室等には空調が設置されている。理科、家庭科等の特別教室への空調整備を一度期に行うことは、学校施設整備の今後の重要な課題であると捉えている。しかし、現時点で特別教室への空調整備を指標として設定するのは難しいと考えている。
委員	重点施策（2）具体的施策④の「子どもの安全見守りボランティアの登録者数」の管理はどうしているのか。
事務局	P T A、保護者、青少協をはじめとする地域の方々、老人会の方々等の数を全て含んでいる。数値としては、32,000人と非常に高いが、現状としては、地域の方の高齢化も進み、朝や帰りに通学路に立つことは難しいという声もある。
委員	登録しても実働はしていないといった状況があると思う。
委員	子どもの安全見守りボランティアは、子ども連絡所とは別か。
事務局	別である。通学路上に立ってくれる方の数である。
委員	重点施策（1）具体的施策②「特別な配慮を必要とする児童生徒に対する支

	援の充実」の日本語指導が必要な児童生徒はどのくらいの人数にいるのか。
事務局	9月末時点で17名である。
委員	日本語指導は外部の講師を招いて行っているが、今後も講師の派遣ということで続けていくのか。
事務局	外部からの派遣の場合、学校のニーズに合った派遣ができないという状況がある。日本語指導が必要な子どもたちのところへ必要な時にすぐ行ける、という支援について施策を進めていかなければならないと考えている。
委員	重点施策（4）具体的施策①「教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っている」は、どのように判断するのか。
事務局	年度末に全ての小中学校に対して、各種教育活動の調査を行っている。その中で、環境の視点、伝統文化の視点、福祉の視点、というようないくつかの視点を設けて調査を行っており、その調査結果に基づいて数値を出している。
委員	「教育課程の趣旨について、家庭や地域と共有を図る」のは分かりにくい。
事務局	趣旨については、保護者にはPTA等で、地域の方には、学力向上会議、学校評議会、学校運営協議会等でそれぞれの学校の教育課程及び学校経営について説明し、ご理解いただいている。
委員	重点施策（4）具体的施策③主な取組の「外部人材」という言い方は、「地域人材」の方が好ましいのではないか。
事務局	検討する。
委員	重点施策（3）現状及び課題で、「学校に求められる役割は大きくなり続けており」とあるが、無制限に拡大してしまっても困る、また、働き方改革については、教員の自己責任にならないように、という視点があることをお伝えしておく。

（3） その他

○第3回大分市教育ビジョン検討委員会は、10月24日（木）の15：00から開催

（4） 閉会